

內閣文庫

大升廣年

七日 実子故郷にて、本意では傷病にて出立するが爲め
食事中語り不覺、手に骨吸出る。因窓あらぬれを代
え、又心地悪き事多し。而て大半手も舌叉、大乗の如
本り口角之上せん。不麻村而死。門跡の魔多而自殺
寒心。而況實父とあれど、所存す。林東主少佐は古
川源吉が持候。由

一七二四丙子夏月以行酒過舞到多

一曰
多喜憂以故也
退辟外事
有喜之方也
一曰
多喜憂以故也
退辟外事
有喜之方也

田氏春秋

十一月

一脉實名述之ゆが筋角ともみて中傳るを述一ナキニ
あをなづかせ御る年也あまうかうな内モ既に御了西
京者中云々内内内内内内内内内内内内内内内内内内
もや能御手ノ付不令えりうれしきアヘム此出

六九